マタニティ・ヨーガ Maternity Yoga



I.マタニティ・ヨーガとは

その名のとおり、妊婦のために作られたヨーガのプログラムです。ヨーガは、体操、呼吸、 リラックス、瞑想から成り立っています。

体操は、体を柔軟にし、妊娠による腰痛や肩こりなどに効果がありますし、お産に必要なポーズが組み込まれています。また意識的に呼吸を行っていくことで、深いリラックス状態を体験し、心地よく瞑想に入ることができるでしょう。

もちろん、妊婦さん向けにアレンジされていますので、無理はありません。15週以上の 正常な妊娠経過の方なら、誰でも簡単に行うことができます。

Ⅱ.ヨーガを始める前に

1. ヨーガは誰でもできるのでしょうか?

ョーガは決して激しいスポーツではありませんが、原則として、妊娠経過に異常の無い 妊婦が対象となります。

- ※ 切迫流・早産で安静が必要な人は、行ってはいけません。
- いつ頃から始めたらいいでしょうか?
 妊娠15~16週の安定した時期から始めるのがよいでしょう。
- 3. いつ、どんな所ですればよいのでしょう?
- ◇静かで落ち着いた、換気がしやすい部屋で練習しましょう。
- ◇ 服装は、ゆったりとしたものにします。帯ははずして行いましょう。
- ◇ 体操2時間前は、食事を控えるか軽食にしましょう。(満腹で運動すると、おなかが痛くなることがあります。)
- ◇ 入浴後30分は体操を控えましょう。

Ⅲ. 体操を行うときの注意点

- 1. 体操は、お腹に強く圧迫が加わるようなものは避けます。また腹部を伸ばしすぎたり、 突っ張るまで体をねじることはよくありません。
- 2. 立って行うときは、バランスが取りにくくなるので、必ず足は開いて行います。
- 3. 無理はせず、体操は少し痛いところで止めましょう。 妊娠中は体が柔らかくなっています。無理をすると筋肉を傷めてしまいますので注意 しましょう。
- 4. 運動終了後、5分以内に腹緊がおさまらない場合は、次回から運動を中止しましょう。 運動することで、多少お腹が張ることはありますが、休んですぐおさまるようなら心配は 要りません。

IV. ヨーガのやり方と基本

- 1. ヨーガ体操の原則
- ① 緊張の後には弛緩を行います。
- ② 動かしている体の部分に意識を集中させます。
- ③ 呼吸と動作は滑らかに行い、呼吸と動作を合わせます。
- 2. 呼吸について
- ① 吐く息を長く、息はゆっくりとやや抑えめに吐きます。

吐くときは体の力が抜ける

- ② 呼吸の流れはスムーズに行います。
- ③ 体を反らせたり、大きく広げる動作では息を吸い、前に曲げたり縮まる動作では息を 吐いていきます。
- ④ 原則として腹式呼吸で行います。
- ⑤ 呼吸を整えることで精神が安定します。

V. 基本的なマタニティ・ヨーガ プログラム

このコースでは、全体のプログラムを1時間前後に収め、なおかつ、全身をバランスよく動かせるように作られています。リラックスが間で入りますが、体の疲れが残らないように、十分時間を取ってください。

① 花のポーズ



② 首の体操



③ 片脚ずつの開脚



④ 開脚のポーズ



顎は引いて上体を前に倒すように

⑤ 両足の裏を合わせるポーズ



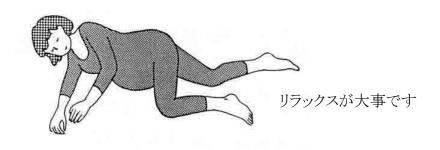
両足をぐっと引き寄せます

⑥ しゃがみこみのポーズ

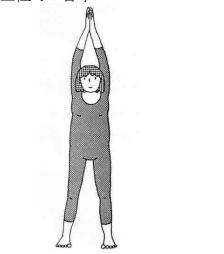


合掌した手を少しずつ下ろしていきます

⑦ リラックス(シムスのポーズ)



⑧ 立位での合掌



かかとから指の先まで気持ちよく伸ばす

⑨ 立って背中を伸ばすポーズ



⑩ 骨盤の傾斜運動

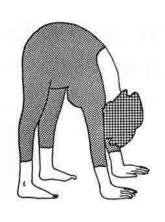


① 立って体をねじるポーズ

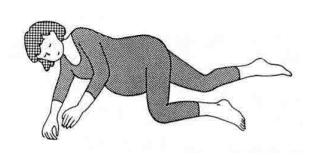


ねじるときは両足に均等に体重がかかるように

12 前屈

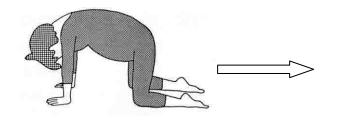


③ リラックス



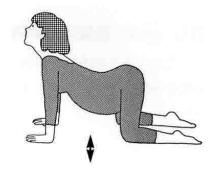
最初のリラックスを思い出して全身の力を抜いてください

⑭ 猫のポーズ



背中を丸くして頭を中にいれおへそを見るようにする

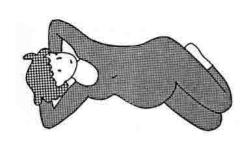
軽く背中を反る



⑤ 猫の変形

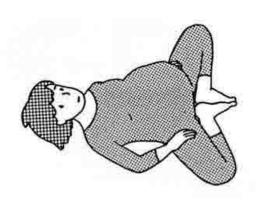


⑯ 寝て体をねじるポーズ



かかとをできるだけおしりにつけるようにする

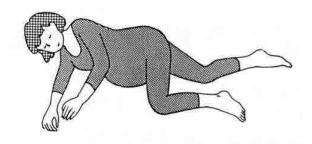
⑦ 寝て膝を開くポーズ



⑱ 仰向けで膝を内におるポーズ



19 リラックス(5分間)



② カパラ・バーティの呼吸法



お腹を動かして鼻から息を出す。

② 月と太陽の呼吸法



左から吸って閉じ 右から出します。

② 瞑想

